

Waseda Vision 150 国際学院の将来構想の進捗状況報告

国際教養学部・国際コミュニケーション研究科の将来構想の進捗状況

■2015年度報告

《学部関連》

[1] 入試制度の抜本的改革

高等学校までの英語教育の改革に対応し、なおかつ入学後のカリキュラムとの高い接続性を目指すべく、2018年度一般入学試験（2018年2月に実施される入試）より、各試験団体が実施する「英語4技能試験」の結果を利用できる新たな制度を実施することを決定した。文部科学省による学習指導要領では、英語における4技能を総合的に活用できるコミュニケーション能力の育成を目指していること、及び当学部では英語が共通言語であり、一年間の海外留学が必須となることから入学直後よりこの4技能をバランスよく兼ね備えていることが求められていること等を踏まえ、一般入学試験の在り方を抜本的に見直したためである。具体的には、従来、一般入学試験において学部独自に実施していた「英語リスニング試験」について2017年度入試を最後に廃止し、2018年度入試から新たに英語4技能の習得度合いを測る指標として、実用英語技能検定ならびにTOEFL®iBTの試験結果を合否の判定要素として導入する。なお、未提出による出願も可能としている。

[2] 海外学生リクルート

学部定員に対する正規留学生比3分の1の目標値は、昨年度に引き続き、回復傾向にあった。また、当学部策定のリクルート戦略に基づいた学部独自の教職員一体となる活動を行うと共に、入学センター（IAO）による職員を中心としたGRP（Global Recruiting Project）との協働・協調による学生募集活動も展開した。結果として、AO入試（9月入学）については過去最高の志願者数を記録した（743名、前年度比111.4%）。

[3] コンセントレーション制度導入

2014年7月にメジャー制度の原案が策定され、その案を基に2015年度にワーキンググループを設置し検討を続け、2016年4月よりコンセントレーション制度と名前を変え制度を開始した。国際教養学部が指定する科目群の中から一定以上の単位数を修得した場合、その分野（コンセントレーション）の修了証明を受けること（卒業時に証明書を発行）が可能となる。リベラルアーツという、専門分野の枠を超えた「幅広い学び」に身を投じる中で興味が湧き、より深く掘り下げたいと思う分野を追究する。専攻に準ずる主たる専門領域をもつことで学修成果を対外的に示しやすくなり、学生のキャリア形成において極めて効果的な措置となる。2016年度は6つのコンセントレーションを設置し、2016年度春学期卒業生から証明書を発行する。

[4] オナーズプログラム

「Waseda Vision 150 実現のための教員増を伴う学院等将来計画支援策」に学部として申請する際に、計画の中心となる実践的なトライリンガル教育をオナーズプログラムとして位置付けた。なお、本支援策では「地域研究および多言語・多文化教育プログ

ラム (Area Studies and Plurilingual/Multicultural Education in SILS) APM プログラム」として採択されている。このプログラムでは、参加者の選抜過程においてプルーリリングアルの素養についても考慮し、その素養がある学生からの参加希望を積極的に受け入れる計画である。

[5] 箇所間協定の拡充

13の大学との箇所間協定に加え、優れた英語プログラムを有する非英語圏の大学との箇所間協定を増やすべく、ベルギーの Institute for Higher Social Communication Studies 及び Vesalius College (ヴェサリアスカレッジ) と箇所間協定を締結した。2016年度には、需要が高まっている交換留学の派遣先を増やすために、英語圏ではあるがアメリカの Roanoke College (ロアノーク・カレッジ) 及び、従来通り非英語圏のリベラル・アーツプログラムを提供し始めたドイツの University College Freiburg (ユニバーシティ・カレッジ・フライブルク) と箇所間協定を締結予定である。

[6] 文部科学省 大学の世界展開力強化事業 (AIMSプログラム) による学生交流の開始

本学と ASEAN 主要6大学 (マラヤ大学、インドネシア大学、チュラーロンコーン大学、タマサート大学、デ・ラ・サール大学及びブルネイ・ダルサラーム大学) で構成されたコンソーシアムによる、インターンシップ、フィールドワーク及びボランティア活動等を組み込んだ学生交流プログラム (AIMS7 多言語・多文化共生プログラム) を2013年度から実施している。2015年度までに事業計画のとおり、全学部 of 早大生を対象として合計50名を1学期間派遣し、協定大学から合計42名の学生を受け入れた。また、2015年度春学期から派遣学生と受入学生による共同ゼミの履修を開始した。2014年までの実績による文部科学省の中間評価において「A」の評価を獲得した。2015年9月にはタイにおいてAIMS7学生会議および合同教職員会議を実施した。また2016年1月には第1回外部評価委員会を実施した。

[7] 第二外国語教育の拡充

フレンチ・プログラム (French Studies Certificate Program) について運営を開始するとともに、年度末に学生の参加方法の見直しを行い、より多くの学生がプログラムのメリットを享受できることとなった。

また第二外国語担当の教員を中心として、プルーリリングアルをめざすための第二外国語教育の充実について検討を行い、「Waseda Vision 150 実現のための教員増を伴う学術院等将来計画」を策定し採択された。

《大学院関連》

[1] 国際コミュニケーション研究科博士後期課程の完成年度に向けた体制整備

2017年度末での博士後期課程の完成年度に向けて、教学及び学生生活上の環境整備の拡充及び運営体制の整備を進めた。

[2] 大学院生の研究・教育への参画及び奨学金制度の拡充

大学院生、とりわけ、博士後期課程の学生の研究・教育への参加の拡充を図った。修士課程・博士後期課程の学生がティーチングアシスタント (TA) として、昨年度以

上に教育活動に参画した。なお、次年度からは博士後期課程の学生が外国人留学生のチューターとして指導を行う予定である。また、博士後期課程の学生が国際学院（国際教養学部・国際コミュニケーション研究科）助手として初めて嘱任された。なお、奨学金制度の拡充について検討を行った。

[3] 海外の大学院との連携強化

博士後期課程の開設に伴い、海外の大学院との連携強化を図るべく、主に欧米地域の複数の高等教育機関と意見交換の場を設け、連携可能性について模索・検討を行った。

■2016年度計画

《学部関連》

[1] 入試制度の抜本的改革

将来的な学生確保率の厳格化を視野に、現行の各入試制度の定員配分の点検等を行う。また、留学生確保率の向上のために、アドミッションポリシーに照らして各制度自体の確認等を行い、必要に応じて改革に着手する。

[2] 海外学生リクルート

引き続き GRP (Global Recruiting Project) と連携し、海外学生リクルートの成果の最大化を図る。とりわけ、米国・香港での活動強化を図り、海外指定校推薦及び国外 A O 入試により、入学者の増加を目指す。なお、戦略的・継続的活動の結果、海外からの志願者は 2012 年度より増加の一途をたどっている一方で、合格者の SAT 平均値を公開するなどといった、学部から志願者に向けたメッセージの導入等の検討に着手する。

[3] コンセントレーション制度導入

2017 年度以降にコンセントレーションを増やすためには、引き続きカリキュラムの再構築や人的資源の拡充を検討していく必要がある。2016 年度は既存科目を中心に組み立てたが、今後特定分野における高い専門性をもち、かつ、地域研究等の、分野を超えた教育・研究も行うことのできる幅広い知識を有した人材の採用等、中長期の教員人事計画も併せて検討する。

[4] 「地域研究および多言語・多文化教育プログラム」(APMプログラム)の設置

2015 年度に申請を行い採択された「Waseda Vision 150 実現のための教員増を伴う学院等将来計画支援策」による「地域研究および多言語・多文化教育プログラム (Area Studies and Plurilingual/Multicultural Education in SILS) APM プログラム」を設置し、計画の中心となる実践的なトライリンガル教育を導入する。このプログラムでは、参加者の選抜過程においてプルーリリンガルの素養についても考慮し、既にその素養がある学生からの参加希望を積極的に受け入れる計画である。

本プログラムでは、2015 年度より運用を開始したフレンチ・プログラムを 4 言語（フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語）に拡大し、新たに採用される 4 人の若手任期付教員を中心に第 2 外国語の教育を充実させる。本プログラムを推進するために新たに委員会を設置し、プルーリリンガルをめざすための第二外国語教育の充実を引き続き

検討しながら、各言語科目の到達指標を精緻化し、科目の体系化をさらに進める。

[5] 箇所間協定の拡充

箇所間協定の更なる拡充を進め、国際教養学部生による留学先選定に際しての選択肢の多様化を図る。また、留学先では、英語での学習を継続しつつ、ブルーリリングアルを目標に現地語の修得をめざす。

<箇所間協定締結予定大学>

College of Liberal Arts (デ・ラ・サール大学)、Faculty of Arts and Social Sciences (マラヤ大学)、College of Liberal Arts and Social Sciences (香港市立大学)、Department of Journalism (香港バプティスト大学)、St. Stephen's College (ニューデリー大学)、School of International Studies (ドレスデン工科大学)、LUISS Guido・カルリ大学、BA Liberal Arts (キングス・カレッジ ロンドン大学)、Faculty of Liberal Arts (ルンド大学)、BA Liberal Arts (タリン大学)、Yale-NUS College Singapore (イェール NUS カレッジ シンガポール)。

なお、国際学術院とケンブリッジ大学 Faculty of East Asia and Middle Eastern Studies 間での研究交流協定締結の手続を進めている。

[6] 文部科学省 大学の世界展開力強化事業 (AIMS プログラム) による学生交流の実施

2016 年度は春と秋合計で ASEAN の協定大学より 30 名を受け入れ、秋には全学部から選抜された 27 名の早大生を派遣する。9 月初旬にはフィリピンにおいて、合同教職員会議及び第 2 期の派遣・受入学生による学生会議を実施する計画である。これらの学生交流事業により、本プログラムでは交流実績において申請時の数値目標を超過達成する見込みである。なお、本事業の採択を契機に、東南アジア諸国の英語プログラム、また、欧州のリベラルアーツ系英語プログラムとの連携をめざしている。

《大学院関連》

[1] 国際コミュニケーション研究科博士後期課程の完成年度に向けた体制整備

2017 年度末での博士後期課程の完成年度に向けて、教学及び学生生活上の環境整備の拡充及び運営体制の整備を進める。

[2] 修士の教育課程の見直し

修士完成から 1 年度を経過し、カリキュラムの点検・見直しを行うことで、より専門性の高い科目の設置を行う。

[3] 大学院生の研究・教育への参画

大学院生、とりわけ、博士後期課程の学生の研究・教育への参画をさらに拡充する。

[4] 海外の大学院との連携強化

海外の大学院との連携について、教員・学生相互のレベルでより一層の強化を図る。

以 上